

令和3年度 さいたま市立東大成小学校 自己評価書

校長 島田 彰 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 「よい授業」4つの因子を意識した授業改善、指導方法の工夫に努め、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わえる授業を展開し、基礎学力の向上を図る。
- (2) 特別の教育課程（G・S、『潤いの時間』）の効果的な取組を図る。
- (3) 児童間トラブル等に対する初期対応の充実、いじめの問題等に係る組織的対応の充実、不登校解消に向けた支援の充実等を図る。
- (4) 登下校指導、一斉下校における指導の徹底、地域防犯ボランティアや子どもひなん所110番の家などの学校安全ネットワークとの連携・活用を通し、『安全』に対する意識の向上を図る。
- (5) ICT機器の積極的な活用、資料等の情報共有・有効活用の活性化、会議開始時刻の厳守及び会議時間の宣言の徹底、「残業なし日」の設定等を通し、「働き方の見直し」を行う。

2 評価結果について

- (1) 「学習内容が分かっている」と肯定的に回答した児童は90%を超えている。全国学力学習状況調査の結果においても、平成31年度実施結果に比べ全体的に数値が上回っていることから、工夫した授業が継続的に展開されていると評価できる。しかし、市平均と比較すると下回っている項目が多く、特に算数「数と計算」では3.2ポイント、「変化と関係」では5.0ポイントの差があり、まだまだ課題は多い。
- (2) 各学年に応じた業前活動（G・Sタイム）を充実させることで、英語に親しむ態度や知識・技能の育成を図ることができた。また、「友だちと仲良く協力して学校生活を送ることができている。」と回答した児童が97%以上おり、肯定的な人間関係の構築ができていることも考えられる。
- (3) 「学校が楽しい」と回答した児童は95%、「先生が困った時に相談に乗ってくれるか」という質問に対しては97%以上が肯定的な回答をしており、教職員の児童一人ひとりへの丁寧な対応が考えられる。しかし、不登校の解消は引き続き課題となっている。
- (4) 「安全に気を付けて生活している」と回答した児童・保護者は90%を超えており、日々の安全指導の結果と考えられる。しかし、校舎内でのケガは依然として起こっており、今後児童の体力低下による運動中の事故やケガの防止にも努めていく必要がある。
- (5) 学校組織運営については90%以上の職員が肯定的な回答をしている。一方で、日報や会議資料の電子媒体への移行、「No 残業デー」の推進等についてはまだ改善の余地がある。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 自クラス・該当クラスにおける児童の学力に係る課題の明確化（調査分析）、業前活動（基礎学力タイム）の積極的な活用等を図り、さらなる基礎学力向上に努める。
- (2) SCやSSW及び外部施設等とも積極的に連携を図り、多様な児童への迅速で丁寧な対応に引き続き努める。
- (3) 子どもたちの交通安全への意識を高め、登下校や一斉下校における交通指導を徹底する。また、校内で起きた事故やケガの背景を分析し、再発防止策を全教職員で共有する。
- (4) TeamsやS-gate等を積極的に活用しペーパーレス化を推進する。また、エバンジェリストを中心にICT機器の効果的な活用を図り、効率的な業務実施につなげる。

※A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。